

リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内中学校（岡山県）

【取組内容①】「クラウド上で質問を書き込むことのできるツールを活用して説明中の質問を効果的に把握」

タイトル

ツールを用いてクラスルームでつながっていない人とも質疑応答可能に！

活用目的
の概要

全体にプレゼンで説明して質問を集める際、クラスルームで繋がっていない人とも手軽に質問を集めることができるソフトを活用すると便利です。使う生徒は二次元コードを読みとれば、後は打ち込んでもらうだけ。聞き手も「質問を考えながら聴く」スキルの向上ができる！

使用アプリ：無料で使えるクラウド上で質問を収集できるソフト

【活用概要】

- (1) 実施日：令和 5年 10月 11日
- (2) 実施学年：6年生 生徒会役員
- (3) 実施領域：生徒会活動・中学校生活スタートプログラム

(4) 実施内容の紹介（概要）

生徒会の取り組みについて、生徒会役員が6年生にプレゼンテーションソフトを用いてプレゼンを行った。その際、ただ聴いてもらうのではなく、質疑応答しながらプレゼンを進めていきたいと、生徒が申し出てきた。

そこで使用したのが、無料で使えるクラウド上で質問を収集できるソフト。クラスルームで繋がっていない生徒でも、各自に二次元コードを読み込んでもらうだけで、質問を打ち込むことができる。質問を考えながら、プレゼンを聴くことで、6年生の「聴く力」と生徒会役員の「答える力」が同時に育つ。また、6年生は真摯に自分達の質問に答える生徒会役員を見ることで、生徒会の認識や頼もしい先輩がいるという実感をもち、中1ギャップの解消にも繋がっていく。



校則をなくしてよかったと思ったことはありませんか。

Anonymous
0 today, 10:00am

どんな校則がありましたか

Anonymous
0 today, 10:00am

生徒会はどんな大変なことがありますか。

Anonymous
0 today, 10:00am

どうやったら地域の人達に愛されますか